

## 【2月の平均最低気温】

(1981～2010年)

順位	都道府県	平均最低気温(°C)
1位	沖縄県	14.8
2位	鹿児島県	5.7
3位	長崎県	4.4
4位	福岡県	4.1
5位	宮崎県	3.4
・	・	・
・	・	・
・	・	・
47位	北海道	-6.6
	全国平均	1.0

# 14.8℃

今年もプロ野球の春季キャンプの季節がやってきた。9球団が沖縄でキャンプインする。

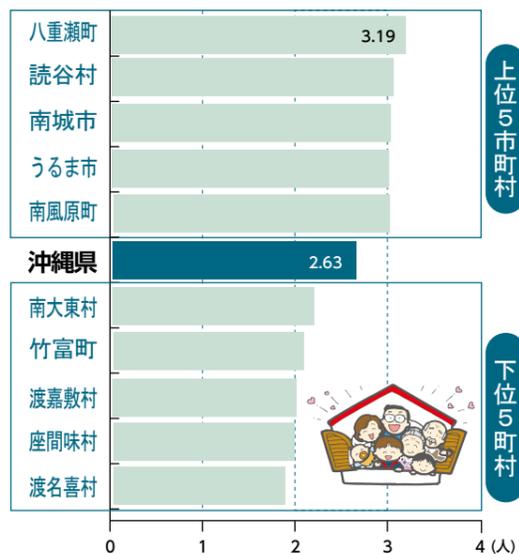
沖縄でキャンプが実施される理由として「温暖な気候」を挙げる人は多い。では2月の沖縄は他県に比べどのくらい暖かいのか？

気象庁発表の過去30年間の気象データから平均気温を調べた。2月の最高気温では、沖縄の19.8℃に対し2位の鹿児島は14.3℃と実は意外に差がない。一方、最低気温では沖縄の14.8℃に対し、2位の鹿児島は5.7℃。実に9℃もの開きがある。体を冷やさないことが重要なスポーツ選手にとって、気温の下がらない沖縄は最適の環境であるといえよう。ちなみに最低気温の14.8℃は、東京では5月上旬のGWのポカポカ陽気の時期に相当する。

キャンプが始まると春は目前。皆さんも冬の時期に中断していたスポーツを再開してみは？ (海邦総研／堀家盛司)

## 【市町村別1世帯当たり人員】

(2010年)



# 2.63人

他の都道府県とは異なり2030年まで人口の増加が続くと予測されている沖縄県。子供の割合が最も高いことも有名で当然ながら子育て世帯数も日本一だ。世帯あたりの人数はどうだろうか。

総務省統計局「2010年国勢調査」をみると沖縄県の1世帯当たり人員をみると2.63人。全国平均2.42人は上回っているものの18位の水準にとどまっている。

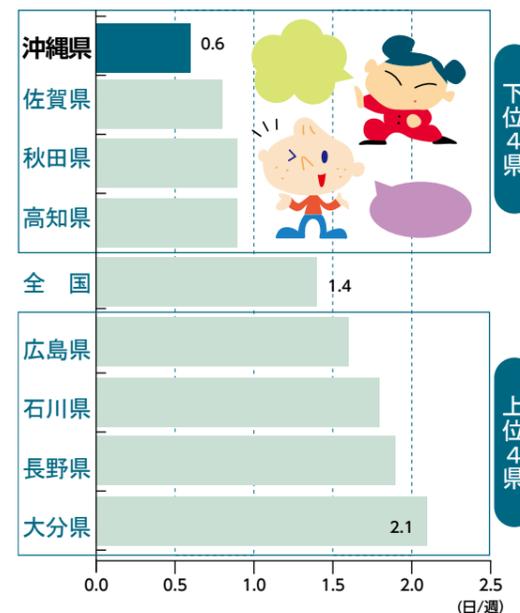
市町村別の1世帯当たり人員をみると、八重瀬町が3.19人と県内ではもっとも多い。上位は南部および中部の市町村が並び、3人を超えるのは、読谷村、南城市、うるま市までとなっている。

下位は離島町村が並び、渡嘉敷村、座間味村、渡名喜村の3村は2人以下である。ここ沖縄でも1人世帯の占める割合は高く、高齢者の一人世帯も増加している。

他都道府県との違いはあれど、やはり傾向は変わらないようだ。(海邦総研／新里治史)

## 【英語以外の外国語学習日数】

(2011年)



# 0.6日/週

学校で初めて習う外国語に英語を挙げる人は、今もなお多いことだろう。だが、最近、県内では中国語などで書かれた値札や看板が見かけられるようになった。

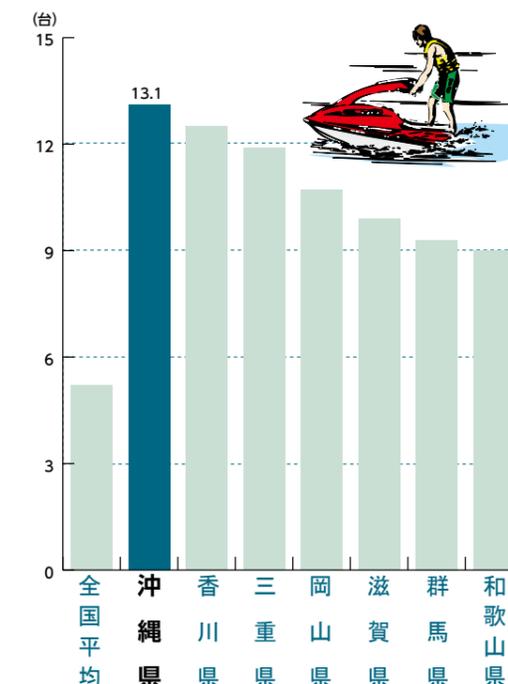
総務省が発表した2011年「社会生活基礎調査」によると、沖縄県民が英語以外の外国語習得に使う日数は、1週あたり平均0.6日と全国最下位だ。一方、英語習得には1週あたり平均2.0日費やしており、全国2位と実は自己啓発意識が意外に高いのだ。

芸術・文化活動にあてる日数も沖縄県は平均1.6日/週と全国2位の水準だ。しかし、英語以外の外国語学習日数が極端に少ないのは、国際化対応が論じられる沖縄にとって、やや寂しい気がする。

日本語・英語プラス1言語の実践が万国津梁への真の一歩だ。業務の第一線で、バランスのよい言語感覚が重要だと痛覚する経済人が県内でも増えてきたのでは？(海邦総研／玉城有一朗)

## 【特殊小型船舶の在籍数】

(2011年度)



# 13.1台

1年中マリンスポーツが楽しめる沖縄。特に夏には沖合でジェットスキーを楽しんでいる風景を見たことのある人も多いだろう。運転するには特殊小型免許の取得が必要となるが、友人の中に1人くらいはジェットスキーの運転経験者がいるのではないだろうか？

日本小型船舶検査機構の「都道府県別用途別在籍」の人口1万人当たりの特殊小型船舶の在籍数をみると、沖縄県は13.1台で全国1位。新品だと100万円以上するものも珍しくない。車検や置場の確保、遊んだ後の洗浄など意外とコストや手入れがかかるようだ。

海上を運転する爽快感を一度味わうと虜になってしまうのかも。実際に運転してみるとあまりの速さに驚く人も多いだろう。

ただし、かなりのスピードが出るため、人が多い場所では運転しないなど、マナーを守って楽しんでほしいものだ。(海邦総研／中山禎)